

信仰によるアーメン(ルカ 1 : 26-38)

人生の最高のニュースは何なのでしょう。それは罪人を救うためにキリストがこの世に来られたというニュースです。そして、そのキリストが私に宿って私を通して地の果てにまで行かれるというお知らせこそが最高のニュースです。それを福音と言います。私たちはこの福音を自分のものにして豊かに味わうためには何が必要なのでしょう。言葉を変えますと、なぜそのように味わうことができていないのでしょうか。今日の聖書の箇所を通して、その答えを見つけていただきたいと思います。

ガブリエルという天使が処女だったマリヤに現れて、「あなたは身ごもって子どもを産む。その名をイエスと言いなさい」と言いました。マリヤは当然びっくりして「そんなことあり得ません」と反応しました。けれども、ガブリエルは「これは神様の力によって神様がなさることであり、あなたは神様に恵まれた人なんだ」とお話をしたら、マリヤはすぐに天使を通して言われた神のみことばにアーメンと信仰を持ってうなづくことになりました。これを通して私たちが福音を自分のものにして、それを豊かに味わい、この地上において光輝く証人として歩くために必要なものは、

1. 人のすべての理解を下ろす時、救いの祝福が見えて来る。(34)

まず第一に、人のすべての理解を下ろしてしまうとき、救いの祝福が何か見えてくるようになります。

34 節にこう書いてあります。「そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知らないのに」と言いました。マリヤの理解では到底理解できません。

1) 救い-人の理解が及ばない全き神様の仕事

神様が人となり、処女誕生、身代わりの十字架等々

しかし、神様の救いの働きは、最初から人の理解が全く及ばない、全き神様の仕事なのです。だから人間の理解に当てはまらないし、人間の理解が及ばない不思議な神様のみわざであるということをおぼえてはけません。考えてみてください。神様が救いのために人となられました。これが人間の理解にあてはまるものなのでしょうか。しかもそのキリストが処女から生まれる、処女が身ごもってキリストを産むという話は到底理解の範疇には収まらないお話なのです。しかもその罪のない神の御子キリストが罪人の身代わりとなって十字架で死なれ救いが与えられるということは、何をどう考えても全く理解できないお話なのです。これが神様の救いのお働きというものなのです。

2) 神様は人の理解を求めず、ご自分のなさることを

それで神様は人の理解など一切求めないで、ご自分だけに可能なことをご自分の力で成し遂げていかれる御方です。

3) 想像を絶する人間の絶望的状态

なぜかと言いますと、人間というのは想像を絶するほど絶望的な状態です。ご存知のように、自分の罪と罪過の中であって、死んでいたものであって、空中の権威を持つ支配者に従っているものであり、生まれながら神の御怒りを受ける子として生まれる存在です。何をしても神様に敵対することしかできない根本を抱えて、そういう霊的な状態のなかで生きていく者が人間なのです。そのような人間の理解に神様がなさる救いの働きが理解できるのでしょうか。なので、この救いの働き、福音のみことばというのは、人の理解に収まらないものなので、人の理解をすべて捨てて下ろすときに見えてくるものなのです。

4) 科学、道徳、常識、哲学、宗教、経験...

科学がいくら発展していても、神の救いの働き、福音のニュースは、その科学の知識に収まるものではありません。道徳的にいくら優れたものでも、それで救いを理解することはできません。いくらその人が常識に満ちている人間であっても、その常識では救いにアプローチすることなどは不可能なのです。人々は哲学に

深くはまる場合があります。どんなに深い哲学の知識を持っていても、それは救いを理解することには至らないものなのです。場合によっては、宗教にのめり込む場合もあります。さまざまな体験も可能でしょう。しかし、その体験、宗教の熱心というものは、救いを理解することとは程遠いものなのです。人間は人生を生きる間にさまざまな経験をします。しかし、いくらすごい経験をしたからといって、その経験が救いを理解させるものではありません。人間が持っているもの、地上にあるいかなる良いもの、すごい素晴らしい優れたものであっても、神の救いを理解することは不可能なのです。だから神様は人間の理解などを求めないで、神様ご自身の力でご自身のやり方で約束を全うしていかれる方です。だから、救いを理解して福音のニュースを正しく理解し、それを自分のものにして豊かに味わうためには、人のすべての理解を下ろさなければなりません。人の理解ですべてを収めようとする、その不信仰のやぐらが砕かれなければなりません。

5) ヨハネ 1:10-11、I コリント 12:3、ルカ 1:34-35、ピリピ 3:8

イエス様もこのようにおっしゃいました。ヨハネ 1:10-11 を見ますと、「この方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。この方はご自分のくににいられたのに、ご自分の民は受け入れなかった」。そうなるしかないものです。人間というのは、自分の理解によってどうにかしようとする、このような結果を招くしかありません。I コリント 12:3 にだからここのように言われています。「ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません」。聖霊によらずには（今日の聖書の言葉によりますと）神様に恵みを受けたものでなければイエス様のこと、救いのことを理解することはできません。理解という言葉が混乱してしましますが、そもそも理解という言葉が当てはまりません。34-35 節にも、マリヤは最初、「こういうことはありえないのではないのでしょうか」と言いましたが、御使いがこのように言いました。35 節「御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます」。聖霊の力によっていと高き神様の力が覆われる、そういうことによってのみ信じることができるものなのです。そういう意味でパウロは、地上にあるすべての良いものに対してちりあくたと宣言しています。パウロが今まで自分が誇りに思って自慢に思っていたものに対してちりあくたと宣言していたゆえんがここにあったわけです。人間の理解が及ばない神様の救いのみわざ、人間の理解に当てはまらない福音の素晴らしいニュース、そのことを正しく心から認めて領いて、人のすべての理解を下ろすときに、救いのみわざが見えてくるようになります。

2. 神様に恵まれた人は信仰によりアーメンして救われ、用いられる。(38)

そして、そのことによって二番目です。ならば、誰がどういう人がこの救いの祝福を正しく知り、その恵みに預かることができるのでしょうか。今日の聖書に書いてあるとおりに神様に恵まれた人でなければなりません。神様に恵まれた人は、理解ではなくて信仰によってアーメンとして救われて、信仰によってアーメンすることで用いられることとなります。

アーメンというのはマリヤが言ったとおりにおことばどおりになります。おことばどおりです。おことばどおりになることを信じます、という意味がアーメンなのです。マリヤは御使いの言葉、御使いを通して語られた神様のみことばに対してアーメンとしました。私たちが救いの祝福を自分のものにして、福音を本当に自分のものにして、それを豊かに味わうことのためには、アーメンの信仰を持たないといけません。信仰によってアーメンしないといけません。

1) 神様のみことばだけを根拠に

アーメンというのは神様のみことばだけを根拠にして、それを信じることです。なぜなのでしょう。私たちの理解には当てはまらないかもしれません。しかし、すべてが当てはまるのであれば、神様は神様ではなくて私たちと同じ水準ではないのでしょうか。なので、神のみことばに対しては、私たちが理解を示して理解するものではなくて、全き信仰を持ってアーメンとして受け入れるものなのです。神様はみことばをもって約束されて、人間の理解をはるかに超えてそのみことばをその通りに実現される方なのです。だから、神のみことば、神様がおっしゃったことであれば、無条件アーメンなのです。必ずその通りになりますので。恵まれた人であれば、神のみことばだから、神のみことばだけを根拠にしてアーメンという信仰の上に立つこ

とができるようになります。

2)ローマ 3:23、3:10、創世記 3:15、イザヤ 7:14、マタイ 1:21 ヨハネ 19:30、マルコ 16:6

神様はおっしゃいます。ローマ 3:23、すべての人は、罪を犯して、神からの栄誉を受けることができない。3:10、義人はいない。ひとりもないとおっしゃると、恵まれた人はアーメン、その通りですと。理解しようとしてではなくて。いろいろ検索したり探ったりしないでアーメンです。神様がおっしゃったから。それで神様は、女の子孫が生まれて蛇の頭を踏み砕いて、その女の子孫がかかるとに噛みつかれることであなたがたは救われますとおっしゃいました。アーメンです。それにアーメンします。イザヤ 7:14、あなたがたの救いのために、罪人の救いのために、処女が身ごもって子ども産むよ。その名をインマヌエルと言いなさいとおっしゃいました。ならば、恵まれた人はそれにアーメンします。それを信仰と言います。そして今日マリヤが言われたように、マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそご自分の民をその罪から救ってくださる方ですといわれるとアーメン。そこになかなか理解できないな、もう少し考えなくちゃ、となることは、人間の王からは理解できるかもしれませんが恵まれた人ではありません。恵まれた人は理解を下ろして、理解など頼らずに信仰をもってアーメンと反応を示すことになります。そして神様おっしゃいます。このキリストが生まれて、キリストが十字架にかけられて、その十字架の上ですべてを完了したと宣言されました。ならば、恵まれた人はそれにアーメンします。本当に完了したのか。完了したって何？ではなくて、神様が十字架の上で完了したと宣言されましたのでアーメンです。なぜでしょうか。イエス様のおことば、神様のおことばなので。マルコ 16:6には、イエスはもはやお墓の中にはいらっしゃいません。よみがえられました。復活しましたとおっしゃるのであればアーメンです。人が死んでよみがえることなどあり得るかと言句をつけずにアーメンです。なぜなら神様がそのようにおっしゃったので。聖霊の力によって、いと高き神の力が覆われて成し遂げられることなので、それが神のみことばなのです。それを福音と言います。神様はキリストを通してこのように罪人の救いを完璧に成し遂げられることとおっしゃり、その通りになりました。それでこれを根拠に神様はおっしゃいます。どのようにしてあなたがたにこの救いの祝福が自分のものになるのか。他には何もありません。

3)救いの道-ヨハネ 1:12、ヨハネ 3:16、ヨハネ 5:24

ヨハネ 1:12「受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」となればアーメンです。なるほど、アーメンです。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」（ヨハネ 3:16）。アーメンです。ヨハネ 5:24「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」と言われると、何も考えずに何も言句言わずに心から信仰をもってアーメンします。なるほど、それで救われることを信じます。

4)復活のメッセージ

イエス様はよみがえられたあと、天に昇る前にイエス・キリストを受け入れた弟子たちにおっしゃいました。これからあなたがたを通して地の果てにまでイエスの証人となることで世界福音化が成し遂げられるよと。ええ、私たちにそれができるのでしょうかとか、どうのこうのではなくて理解を全く下ろして、イエス様がおっしゃったので聖霊の力によって、いと高き神の力によって成し遂げられるわけなので、そのままアーメンです。アーメン。あらゆる国の人々を弟子としなさい。すべての人々に福音を宣べ伝えなさい。私の名によって悪霊を追い出して、病人に手を置けば病人は癒されると言われたらアーメンです。理解しようではなくてアーメンです。神のみことばはその通りになるものなので、それにアーメンと反応を示すことはみことばそのものを喜ぶことです。アーメンは喜びなのです。その通りになる神のみことばをいただきましたので。

5)信仰によるアーメン(理解 x)-恵まれた人

私たちが信仰によって理解できない部分もたくさんあるかもしれませんが、しかし、イエスはキリスト、救いの奥義、この福音のメッセージを聞いて心からアーメンしたのであれば、理解を取っ払って、その人は恵まれた人に間違いありません。神様に恵まれた人は、信仰によっておことばどおりになります。アーメンと告白してみことばを受け入れることで救われ用いられることになります。マリヤは迷わずにアーメン、おこと

ばどおりになりますようにと天使を通して語られた神のみことばを受け入れました。そして、その後また賛美を捧げますが、アーメンと信じた人は神様に豊かに豊かに用いられることになります。マリヤはこれから世界中の人々が代々にわたって私を幸いなもの、幸せなものと言うだろうと。マリヤも神様に救いのために用いられました。キリストが来られることのために用いられました。今私たちがすべての理解を下ろしてアーメンと信仰によって神のみことば、福音のみことばを受け入れるのであれば、その人は救われた者になり、また世界福音化のために必ず用いられることになることを信じていただきましょう。

なので、皆さんぜひ、神のみことばと救いを自分の理解に当てはめようとする不信仰のやぐらが砕かれるように祈りましょう。今まで私たちは神様を離れていたのです、すべてが理解に基づいて、理解がすべてでした。神様がいらっしやらなかったのです。人間がすべてだったので。その体質、その名残が残っていて、せっかく恵まれてイエス・キリストを信じると言いながらも、あらゆる神のみことばに対して理解からアプローチしようとし、信仰の祝福を豊かに味わうことを逃してしまう場合が多くないでしょうか。今日のこの礼拝メッセージを通して、そこ本当に取っ払って理解でなくてアーメンの信仰なんだと。理解を重視している知識のある人、また経験豊富な人、社会的にレベルのある人の弱点が何かというと、神のみことばだから理由なしで無条件アーメンする人を愚かな者、幼稚な人間扱いする場合があります。それは逆です。知識がないから、いろんな意味で劣っているからアーメンするわけではありません。神のみことばは一片足りともミスもないし、必ずその通りになったし、これからもなるものなので。人間の理解をはるかに超えた神様の方法、力によって必ずその通りなるものなので無条件、理解を砕いてアーメンと信仰をもってそのみことばを受け入れるわけです。無知だからではありません。理解が足りないからでもありません。神のみことばは理解ではなくて信仰によるアーメンなのです。なので、理解をメインにして神様に、みことばにアプローチしようとするサタンのやぐらが砕かれることを祈りましょう。特に申し訳ありませんけれども、日本人の場合は人間的に先進国でありものすごく優れているのです。ただ信仰より理解を優先しようとする傾向がありますので、今日の聖書の箇所を通して、神のみことばはそういうものではないということを明確にしましょう。

それで今までもそうだったでしょうが、これからは特に神のみことばを聞くときにアーメンという信仰をもって受け止める信者になりましょう。その中でもまず優先的に、キリストを通して私に成し遂げられた救いの祝福のみことばに対して無条件アーメンしましょう。

それからそのように救われた私を通してこれからなされる救いの働きを神様は語っていらっしやいます。そのことばに対してアーメンと信仰をもって受け止めるようにしましょう。

最後にⅡコリント1:20を読んでメッセージを終わりにしましょう。「神の約束はことごとく、この方において「しかり」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン」と言い、神に栄光を帰するのです」。このことばとおりに信仰をもってアーメンと受け止める信者になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。神のみことば、特に福音の神のおことばは私たちの理解に当てはまらないことを心から素直に認めて、今まで理解をメインにしてアプローチしていたそのすべてを悔い改めて全部下ろして、無条件、神のみことばだからというひとつの理由でアーメンという信仰をもって受け入れることで救いの祝福、そのみことばが私に留まり、私の内側で知識ではなくてみことばが運動するその働きを経験し、それがいのちの働きにつながる主人公となるようにひとりひとりを豊に祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。